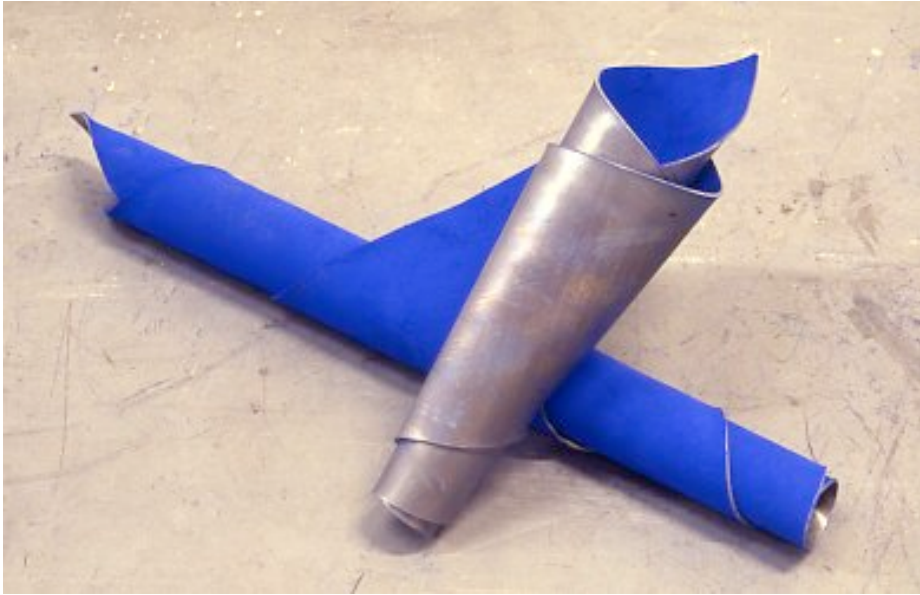


## スタンディング・ポイント | 「寺内曜子」展



Yoko Terauchi, *Untitled*, 1986

慶應義塾大学アート・センターでは、2011年度から5年にわたり「同時代の眼」シリーズで現代美術を紹介してまいりました（2011年度ハミッシュ・フルトン、2012年度スタンリー・ブラウン+ダニエル・ビュレン、2013年度ブルース・マクレーン、2014年度イミ・クネーベル、2015年度プリンキー・パレルモ）。若い世代が学ぶ大学という場でこそ、同時代を生きるアーティストたちの作品と出会う機会を作りたいと考えているからです。

2017年度からは新しいシリーズ「スタンディング・ポイント」を開始します。このシリーズでは自立した立脚点をもつ現代作家を紹介し、アートの現代社会における可能性を考えていきたいと思ひます。

新しいシリーズで、最初に紹介するのは寺内曜子です。

寺内曜子は、1970年代末にロンドンに赴き、セント・マーチンズ美術学校の彫刻制作の現場で遭遇した疑問と違和感から出発します。使用する素材の在り方に寄り添いながら、背後に確固たる自身の考えと疑問が秘められているのがその作品の特徴です。寺内は自明の理とされている区分（表裏、内外など）への問いかけから制作を開始し、今なお発信を続けています。それは西欧的の二元論への果てしなき挑戦とも言えるものでしょう。

今回の展示では、イギリスの電話線を用いた〈ホット・ライン〉の新作、鉛を造形するシリーズの作品、また最新作《パンゲア》を展示します。

### ご案内

1. 会期等：2017年5月15日(月)―6月30日(金) | 11時―18時 \* (土、日、祝日休館) 入場無料
2. 会場：慶應義塾大学アート・スペース 慶應義塾大学南別館1階（三田キャンパス正門向かい）
3. 主催：慶應義塾大学アート・センター
4. 関連催事：アーティスト・トーク 5月26日 18:30-20:00
5. お問い合わせ：

慶應義塾大学アート・センター（担当：渡部葉子、長谷川紫穂、松谷芙美）

T.03-5427-1621/F.03-5427-1620 | [ac-tenji@adst.keio.ac.jp](mailto:ac-tenji@adst.keio.ac.jp) | <http://art-c.keio.ac.jp/>